

2.3 引用文献

文献の引用に際しては、著者名と発行年を明記する。著者が3名以上の場合には、第2著者以降を「ら」(日本語文献の場合)あるいはイタリックの「*et al.*」(外国語文献の場合)で置き換える。

引用したすべての文献は、筆頭著者の姓のアルファベット順に配置し、9ptフォントを用いて論文の末尾に置く。そして、[1], [2], ...のように番号をつける。見出しは10ptゴシックで引用文献とする。

2.4 数式と数学記号

各数式は、欄幅でセンタリングすることを原則とする。数式には(1), (2), ...のように番号をつける。この番号は、数式の行(2行以上にわたる場合は最後の行)に右寄せして配置する。数式を本文から分離するため、その上下にそれぞれ1行の空白行を置く。

数式が長く、途中で切断する場合は、各行の間に半行の空白行を入れる。

数学記号を本文中で用いる時には、数式中と同じフォントを用いる。また、それが変数を表すときは斜体とする。

2.5 図と表

図(写真を含む)と表は、初出のページに置くことを原則とするが、次のページに繰り込むこともできる。すべての図や表を論文の末尾に置くことは避ける。

図中または表中で使用するフォントは、本文に準ずる(日本語は明朝体全角、英数字はTimesなどのローマン体を使用)。

2.5.1 図と写真

図は、写真も含め、そのままオフセット印刷されることを考慮した鮮明なものに限る。このため、特に図については、ドロー系(ベクトル系)で描画することを推奨する。すべての図(写真を含む)には、本文中での出現の順に、図 1, 図 2, ...のように番号をつける。説明文は10ptフォントを用い、図の下に置いて、図幅でセンタリングする。

2.5.2 表

すべての表には、本文中での出現の順に、表 1, 表 2, ...のように番号をつける。説明文は10ptフォントを用い、表の上に置いて、表幅でセンタリングする。

3 章の次に続いて節が来る場合は空行を入れる

3.1 例

以上に則して作成された原稿の例を以下に示す。

Lions(1968)によって線型システムはこれまでに解析がなされている(Liu *et al.*, 1992; Liggett and Chen, 1994)。洪水のピーク時には、湧出強度 q は

$$q = q(\theta) = 64.7 + 0.00017\theta + 4.76\theta^2 + 3.92\theta^3 - 0.40\theta^4 + 29.043 \quad (1)$$

によって評価される。ここに、 θ =温度である。連続方程式は、「状態方程式」と呼ばれ、

$$\Delta V = q \quad (2)$$

のように書かれる。ここに、 Δ =ラプラス演算子、 V =速度ポテンシャルである。大東ら(1996)によって提案された手法を用い、図 1 に示す変換された計算格子において式(2)を数値的に解く。

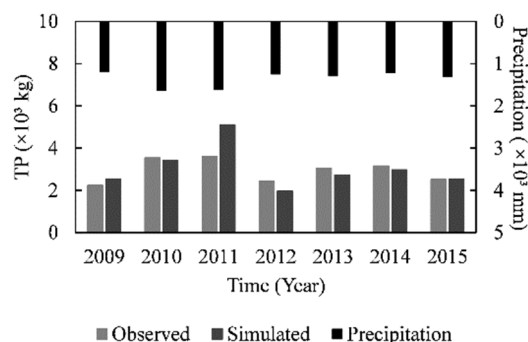


図 1: 説明文が1行の場合、図幅で中央揃えとする。複数行の場合、1行目は図幅とし、2行目からはぶら下がりインデントで「コロンの次の文字」に合わせる。表の説明文も同様とする。

4 おわりに

日本雨水資源化システム学会誌に原著論文を投稿する際、の原稿作成の手引を示した。この執筆要領に従って作成され、かつ、審査を通過した原稿のみが論文として掲載される。本稿は日本語原稿用であるので、英語原稿の作成に際してはInstructions to Authors (I) by Usui and Shigen (2022)を参照されたい。

謝辞

最終章の後に謝辞を書くことが出来る。謝辞及び引用文献の見出しに番号は不要である。

引用文献

- [1] 大東憲二・植下 協・市川悦男 (1996): 掘削構造物周辺の地下水流動状態保全に関する研究, 土木学会論文集, 535(III-34), pp.13-21.
- [2] Liggett, J.A., and Chen, L. (1994): Inverse transient analysis in pipelines, *J. Hydr. Engrg., ASCE*, 120(8), pp. 934-955.
- [3] Lions, J.L. (1968): *Contrôl Optimal de Systèmes Linéaires*, Dunod, Paris, pp.34-89, (in French).
- [4] Liu, F., Feyen, J., and Berlamont, J. (1992): Regulation of unsteady flow in open channels, *J. Irrig. and Drain. Engrg., ASCE*, 118(10), pp.674-689.
- [5] 松原茂樹・加藤義秀・江川誠二 (2008): 英文作成支援ツールとしての用例文献システム, 情報管理, 51(4), pp.251-259, doi:10.1241/johokanri.51.251. <http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/johokanri/51.251>, (参照2008-08-15).
- [6] 中央教育審議会: 教育振興基本計画について, 文部科学省, 2008-04-18, <http://www.mext.go.jp/meu/shingi.html>, (参照2008-08-13).
- [7] Usui, I., and Shigen, H. (2021): Instructions to Authors (I) - Preparation of English Manuscripts-, *JRCSA*, 27(2), pp.1-10.

この論文の公開の質疑または討議は????年??月??日まで受付けます。